ヘルパンギーナに注意！

ヘルパンギーナとは、乳幼児を中心に主に夏に流行する感染症です

症状

- 38℃以上の**突然の高熱**に続いて**のどに強い痛みと水疱**が現れます
- 多くの場合、症状は数日で軽快します
- 合併症として、熱性けいれんやまれに髄膜炎や心筋炎を起こすことがあります

高熱による倦怠感やのどの痛みから、食事や水分を十分にとることができず、**脱水**になることがあるので注意しましょう

感染経路

- **接触・経口感染：** 水疱の内容物や便に排泄されたウイルスが、手などを介して口や目、鼻などの粘膜から入って感染します
- **飛沫感染：** 咳やくしゃみなどのしぶきに含まれるウイルスを吸い込むことによって感染します

保育施設や幼稚園など子どもが集団生活をしている場では感染が広がりやすいため注意しましょう

治療・留意点

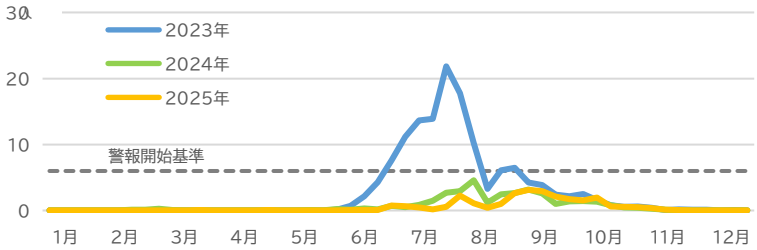
- 特別な治療法はなく、症状に応じた対症療法が行われます
- 脱水を防ぐため、食事は**やわらかく薄味で、のどごしのよいもの**に工夫し、**水分補給**を心がけましょう

感染対策

- 原因ウイルスはアルコールが効きにくいため、**流水と石けんでの手洗い**が有効です
- **タオルの共用は避け**ましょう
- ウイルスは便にも排泄されるため、おむつ交換時は手袋を着用するなどして、**排泄物を適切に処理**し、**処理後はしっかり手を洗いましょう**
- 咳などの症状がある場合には、口と鼻を覆うなどの**咳エチケット**を心がけましょう

症状が改善しても2～4週間は便にウイルスが排泄されるため注意が必要です

流行傾向



山形県内1医療機関当たりの患者数（2023年～2025年）

- 数年おきに流行がみられ、山形県では主に夏に流行します
- 患者の年齢は、5歳以下がほとんどで1歳が最も多くみられます

最新情報は、感染症情報センターWebサイトの「週報」をご覧ください

作成：2026年7月　山形県衛生研究所　感染症情報センター